

# 小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文



平成31年 1月号  
No. 532

## 共に生きる

校長 佐藤 正文

ぜひ、ご家庭でも子供たちの目標に目を向け、努力している姿を認め、励まし、そして支えるだけではなく、達成できたときには、共に喜び合い、賞賛していただきたいと思えます。

我が国初の公共福祉施設『近江学園』を創設し、障害児教育に障害を捧げた糸賀一雄氏（1914-1968）の言葉、「この子らを世の光に」があります。かつての障害児教育は「この子らに世の光を」でしたが、「世の光」を与える側と頂く側とで考えるのではなく、全ての子供が「世の光」となるべきである。分け隔てのない、共に生きる社会を目指すことが、豊かで幸せな社会の礎なのだ。

一人一人の子供を「ありのままに受けとめる」ことから教育活動は始まります。その子のもっている可能性を最大限に引き出す努力を、学校と家庭とがそれぞれの役割の中で、そして、互いの連携の中で、進めていかなければならないと思えます。

今年も地域と共に歩み、保護者、地域の皆様から信頼される学校を目指し、チーム小竹として、教職員一丸となって努力を重ねて参ります。子供たち一人一人に目を向け、励まし、一人一人が大切にされる教育、磨かれた人権感覚をもって、共に生きる学校を目指します。昨年同様、温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



【6年 職業体験】

新年、あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

『一年の計は元旦にあり』といえます。

物事を始めるにあたり、計画や目標を立てることが大切であるということです。今日は、始業式です。3学期の学校生活がスタートするにあたり、どんな目標を立てたでしょうか。

目標を決める際には、「何のため（目的）に、何をする（目標）か」を考える手順が必要です。目標は様々です。自分にとって難し過ぎず、易し過ぎず、自分の力で努力すれば達成が可能であること。また、やったことで具体的な成果が見え、達成感や満足感を味わうことができることも大切な要素です。このことが、次へのチャレンジの原動力となるでしょう。